

を用いることは原則禁忌となる。医薬品に情報は必須とされているが、ベネフィット情報については各製薬企業で、効果・効能を訴えているため、情報には事欠かない。

ここで問題となるのはリスクに関する情報である。リスク情報は、患者・消費者の直接的な被害へと通じるため、正確で鋭敏な情報が必須であり、またその情報を取りまとめ、提供する機関が不可欠である。

情報提供機関として米国ではFDA (Food and Drug Administration) が管理提供を行っているが、わが国では厚生労働省や独立行政法人医薬品・医療機器総合機構

(PMDA) などにて、医薬品・医療機器等の副作用情報が管理提供されている。リスク情報は提供してさえいれば、そこで終結というものではなく、それを活用する医療従事者をはじめ、患者・消費者にまで情報伝達できなければ何の意味も成さない。特に医薬品に限っては、医師および薬剤師への効果的な情報伝達が肝要である。

薬剤師は最終的に患者・消費者に対して薬を手渡し、服薬指導と共にリスク情報を伝達することが責務であり、その重要性は高い。

そこで、現場の薬剤師のリスク情報に関するの重要点が二点あげられる。一点目はリスク情報を正確で鋭敏に把握し、効果的に薬剤師に提供することである。二点目は薬剤師の医薬品・医療機器等の情報やリスクに対するの定見、ならびにリスクに関するの情報伝達の見解である。

薬剤師へのリスク情報伝達が正確で鋭敏に行われているかは、患者・消費者へのリスクコミュニケーションになるだけではなく、医療チームの一員として薬剤師がその専門的な知識を活用し、医薬品・医療機器等を取り扱う上でのリスク管理を行うことにもなり、医療現場での安全性を確保し、医師との連携を行う上で、医療事故等に関するの負担を軽減でき重要な位置づけになることにつながる。

同時に薬剤師の医薬品・医療機器等の情

報やリスクに対するの定見、ならびにリスクコミュニケーションの見解を知ることは、患者・消費者に対してリスク情報伝達を行う上で重要なだけではなく、現場ではどのような情報を要望しているか、またどのように情報を収集し、提供をしているかを知る上で肝要である。

そこで本研究では、今後の調査検討のための preliminary な検討として、調剤薬局チェーンの薬剤師（以下、店舗薬剤師）を対象として本社一店舗間でのイントラネットを用いた配票調査法による質問調査を行い、店舗薬剤師が医薬品・医療機器等の情報（リスク情報等を含む）をどのように収集・提供しているかを調査することにより、リスク情報の情報源や収集方法、ならびに患者・消費者に対するのリスクコミュニケーションの見解を調査検討する。

B. 研究方法

1. 対象

調剤薬局を経営する企業における店舗薬剤師 180 名を対象とした。

2. 方法

病院薬剤師を対象とした分担研究の折并により作成された質問紙調査票と co-work しながら、別紙に示した調剤薬局薬剤師を対象とした質問紙調査票（A4 版 9 ページ）フォーマットを作成した。

質問紙調査内容は 3 つの大項目、すなわち「1. 提供されている医薬品の安全性情報」「2. 医薬品のリスクベネフィット」「3. リスクベネフィットのコミュニケーション」について調査した。質問紙調査票のフォーマットを企業に依頼し、WEB データベース作成用ソフト（サイボウズ®デジエ®）を用いて、イントラネット上で電子的手段による無記名自記式調査（以下、配票調査）を行った。

企業で調査結果を収集、作成されたデータベースを、連結不可能匿名化されたデータとして提供を受け、集計・解析をおこな

った。

(倫理面への配慮)

特に該当しない。(本研究における医薬品の副作用情報提供についての意識調査の検討において、倫理面として配慮すべき問題は副作用情報のセキュリティの管理である。しかし、今回の研究の範囲内においては、個人の情報を取り扱わない。)

C. 研究結果およびD. 考察

店舗薬剤師 180 名に配票調査を行い、有効回答数 154 名 (有効回答率 85.6%) であった。性別分布を表 1、年齢分布を表 2 に示し、また結果の詳細は別紙に示した。

表 1. 性別分布

性別	度数(%)
1. 男性	114 (74.0%)
2. 女性	38 (24.7%)
不明	2 (1.3%)

表 2. 年齢分布

年齢	度数(%)
1. 10歳代	0 (0.0%)
2. 20歳代	46 (29.9%)
3. 30歳代	83 (53.9%)
4. 40歳代	19 (12.3%)
5. 50歳代	6 (3.9%)
6. 60歳代	0 (0.0%)

調査票の設問 I-1-(3) は、上記設問より連動した条件付回答であるが、元来、利用している人は肯定的で批判的な意見が少ない傾向があり、また今検討は今後の大規模な調査検討のための Preliminary な検討という意図もあるため、批判的で利用していない人の意見を取り込むことを目的として今検討では回答を可とした。

PMDA より提供されている医薬品医療機器情報ホームページを認知している薬剤師が 88.3% という結果で、医薬品情報提供先を認知している薬剤師が大多数であった。しかしながら、そのホームページで公開している 6 項目の情報資料「医薬品・医療機器等安全性情報」「使用上の注意の改訂指示通知」「DSU (医薬品安全対策情報—使用上

の注意改訂のご案内)」「医薬品医療機器情報配信サービス」「患者向医薬品ガイド・くすりのしおり」「インタビューフォーム」に注目してみると、“知っているが利用していない”という回答が各情報資料の約六割を占め、50%以上が利用しているという回答を得られたのは「医薬品・医療機器等安全性情報」で 50.0%、「DSU (医薬品安全対策情報—使用上の注意改訂のご案内)」で 56.5%と、2 項目であり、医薬品医療機器情報ホームページを認知しているが利用されている項目が多くないことが示唆された。

6 項目の情報資料で各項目ずつ検討している設問 I-1-(3) の結果より、各項目ほぼすべての質問において肯定的な回答 (“わかりやすい/非常にそう思う”+ “どちらかと言うとわかりやすい/そう思う”) が否定的な回答 (“わかりづらい/そう思わない”+ “どちらかと言うとわかりづらい/あまりそう思わない”) の合計を上回っているにもかかわらず、利用している人が少ないことが示唆された。

半数を超えて利用されている「医薬品・医療機器等安全性情報」「DSU (医薬品安全対策情報—使用上の注意改訂のご案内)」の 2 項目では、「知りたい事柄を見つけやすいか」という質問に対して、否定的な回答が肯定的な回答を上回る結果となり、知りたい事柄を見つけやすく改善して欲しいという利用者の要望が示唆されたといえる。

リスクについての考慮・説明では、処方薬、ハイリスク薬で、“かなり考慮する/考慮する”、“かなり説明する/少し説明する”という回答を合計したものが 95%以上となり、リスクについての考慮や説明の重要性を示唆している。

医薬品等の安全性情報の入手先は、「製薬企業の MR や卸 MS からの情報」という回答が 71.9%と最も多く、次いで「書籍、雑誌、リーフレット (MR や MS など企業から入手したもの)」が 53.9%となっている。病院や診療所で処方された処方薬の詳細情報源として利用する (したい) ものに

についても同様で、「製薬企業の問い合わせ窓口」という回答が 80.9%と最も多く、次いで「インターネット（企業 HP、FDA などの海外規制機関、文献検索を含む）」が 61.7%となっている。これにより、製薬企業からの情報源が最も多いことが推察できる。

処方監査時や調剤時に注意するのは「副作用（健康被害）」との回答が 82.0%と最も多く、医療機器についても最も多い回答こそ「指導の理解」の 66.7%であるが、次点が「健康被害（副作用）」で 51.5%であり、処方薬や医療機器においても副作用への注意が最も重要であるとの見解が示唆された。

リスク情報の収集を十分に出来ていない理由としては「情報収集の時間がない」との回答が 74.4%と最も多く、時間がないことが示唆された。しかし次点の「十分な情報収集手段が分からない」で 38.5%、「不十分な情報が多い（信頼できる情報源が少ない）」が 35.9%となっており、不十分な情報が多く、信頼できる情報源が少ないため、情報を収集できないということも推察できる。

医薬品の情報が欲しい場合の情報源としては「製薬企業の問い合わせ窓口（MR を含む）」との回答が 91.5%と最も多く、次いで「インターネット」の 69.8%となっている。またリスク・ベネフィット情報の信頼性において信頼できる情報源として、「製薬企業の問い合わせ窓口（MR を含む）」との回答が 91.5%と最も多い。この質問項目からも製薬企業が、最も信頼のおける情報源とされているのが示唆された。

リスク・ベネフィットのコミュニケーションとして、ベネフィットの情報交換（提供）で 80.7%、リスクの情報交換（提供）で 81.6%と、両者とも今よりもさらに情報の交換を受けたいと回答した薬剤師が 80%以上と多く存在している。しかしながら、医師や薬剤師などの医療関係者との情報を交換しているかという質問では、「はい」との回答が 49.7%と 50%を切っており、現実

には半数の薬剤師が情報交換等のコミュニケーションを行えていないことも示唆されている。

情報交換を行っている内容として、「リスク情報」が 57.9%、「ベネフィット情報」が 36.8%となっており、また上述しているようにベネフィットの情報交換（提供）に対し、リスクの情報交換（提供）が多いことから、ベネフィットよりも、リスク情報が重要であるという見解が示唆されている。

処方薬については、医師に疑義照会するとの回答が 99.4%であり、ほぼすべての薬剤師が疑義照会を行い、また薬剤に関しての依頼も 74.5%がしたことがあり、多くの薬剤師が薬剤に関しての疑義照会や依頼を行っていることが示唆された。しかしながら、処方薬についての十分な情報の交換や、コミュニケーションに関しては、85.5%が「いいえ」と回答し、情報交換やコミュニケーションが行われていない現状が示唆された。

処方薬の服薬指導を行う際のリスク・ベネフィットの十分な情報提供では、「はい」と回答を得られたのは 67.3%で、約七割の薬剤師で十分な情報提供が行われているとの見解が示唆された。しかしながら、処方薬の副作用の十分な情報提供やコミュニケーションでは、「不十分である」との回答が 52.6%であり、リスク情報に関しては半数以上で十分ではないとの見解が示唆された。

ハイリスク薬の投薬について、どの程度気にしているかという質問では、1.3%が気にしていないと回答を得たのみで、98.7%で“かなり気にしている”および“少しは気にしている”との回答を得られたため、ハイリスク薬については、特に気にしていることが示唆された。

患者・消費者とのリスクコミュニケーションに関して十分にできているかという質問に「不十分である」との回答が 65.6%となった。また継続してできているかという質問にも「不十分である」との回答が 58.2%となった。これらのことより、患者・消費

者に対して、継続した十分なリスクコミュニケーションがとれていないことが示唆された。

店舗では、20～30歳代が多く在籍していた。これは大学を卒業してそのまま就職した薬剤師が多いことが考えられ、勤続年数が5～10年が多いことから示唆される。

E. 結論

本検討より、PMDAの医薬品医療機器情報提供HPは高認知度ならびに低利用度、代替情報源としての製薬企業利用、患者・消費者に対してのみならず医療関係者同士でのリスクコミュニケーションを行うことについての重要性、が示唆された。

PMDAなど医薬品・医療機器等についての情報提供源を認知しているにもかかわらず、利用する過程で、期待するほどの情報が得られにくいというのは、情報提供側に対して改善策を施すことが効果的に情報を伝達するための方策となる。だとすれば、PMDA等の情報提供側に、利用者からの視点（医療関係者のみならず患者・消費者の視点）をフィードバックし、利用しやすい環境を整備することが課題となる。特にリスク情報の提供やコミュニケーションは、ベネフィット情報より重要視されており、常に正確、鋭敏で、効果的に伝達することが、医療関係者のリスクコミュニケーションの推進を検討する上での端緒となる。

また医療関係者同士で、気軽に情報交換やコミュニケーションを図ることの可能な環境を整備し、リスクコミュニケーションについて定期的に問答することが、患者・消費者に対しての、情報伝達、リスクコミュニケーションにつながる。

今検討では、20代、30代が多く、パソコンのインターネットを用いた電子的情報伝達手段が日常的になっている世代であることが考えられるため、インターネット等を使いこなせない世代についてのフォローアップが成されないことも予期しておかなければならない。

今後、PMDAや厚生労働省など公的情報提供源による情報提供方法改善の検討、各世代に応じた情報伝達についての検討、患者・消費者に対しての情報伝達手法およびリスクミの環境整備についても検討されていくことが望まれる。

F. 参考文献

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表など

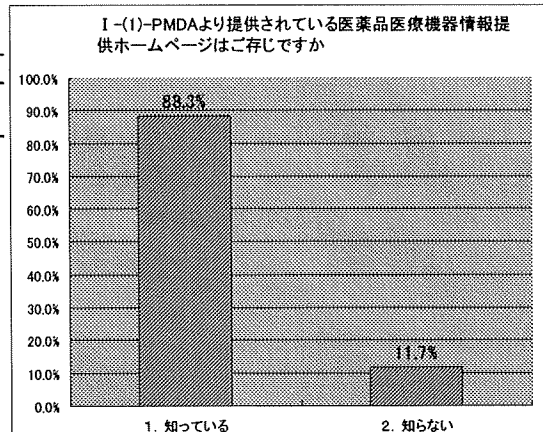
なし

H. 知的所有権の取得など

特になし

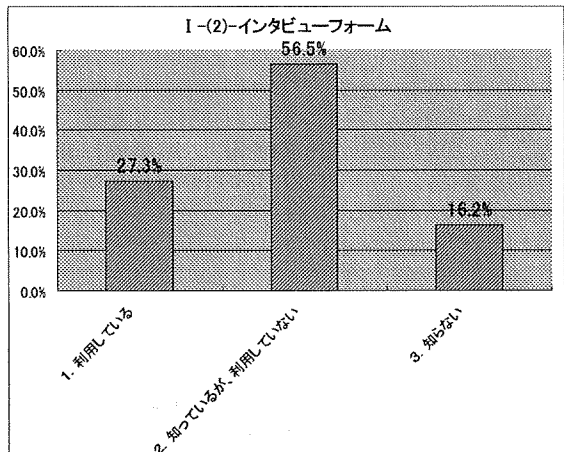
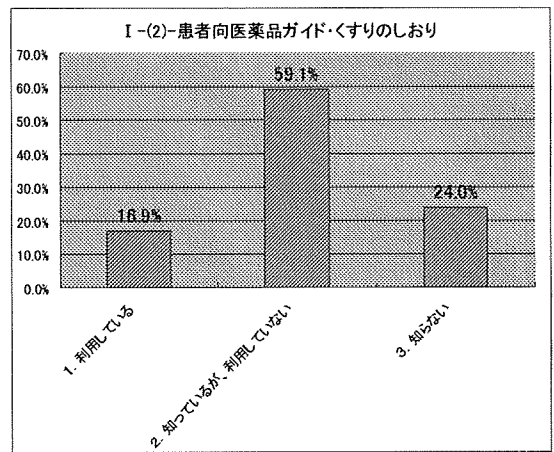
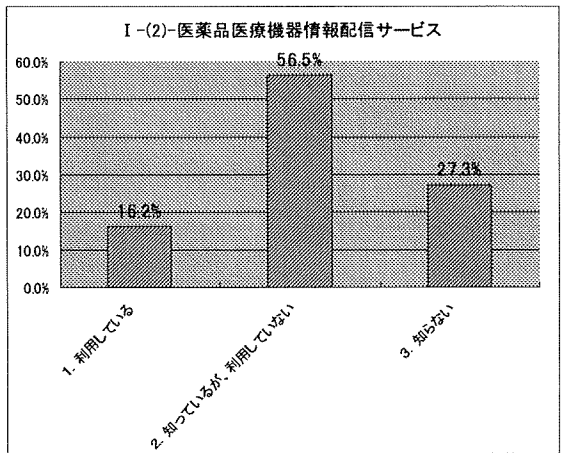
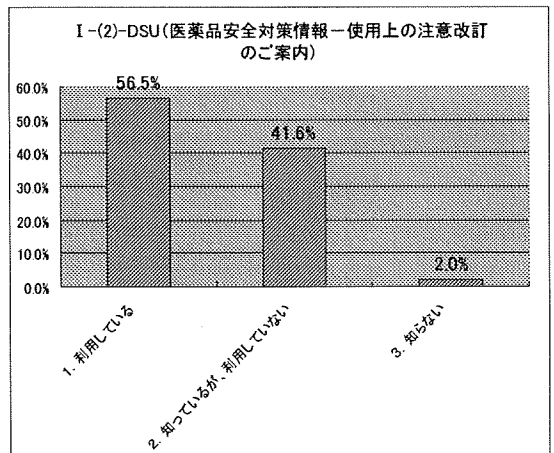
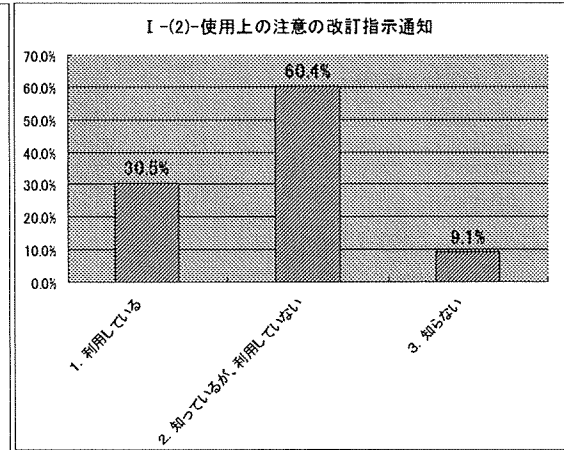
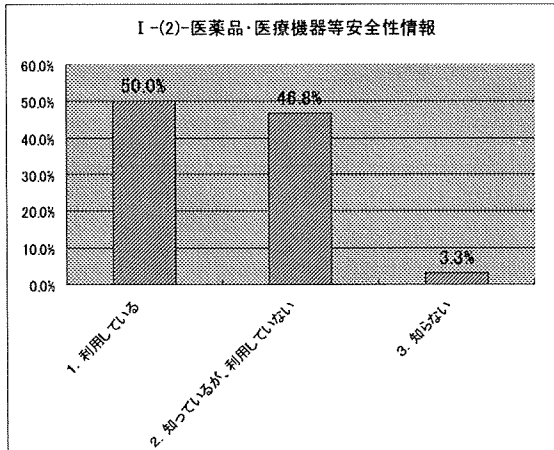
I-1-(1)PMDAより提供されている医薬品医療機器情報提供ホームページはご存じですか。

	度数(%)
1. 知っている	136 (88.3%)
2. 知らない	18 (11.7%)



I-1-(2)医薬品医療機器情報提供ホームページの情報とサービスである下記の項目を、それぞれ利用されているか、該当するものに丸をつけてください。

	度数(%)
医薬品・医療機器等安全性情報	
1. 利用している	77 (50.0%)
2. 知っているが、利用していない	72 (46.8%)
3. 知らない	5 (3.3%)
使用上の注意の改訂指示通知	
1. 利用している	47 (30.5%)
2. 知っているが、利用していない	93 (60.4%)
3. 知らない	14 (9.1%)
DSU(医薬品安全対策情報－使用上の注意改訂のご案内)	
1. 利用している	87 (56.5%)
2. 知っているが、利用していない	64 (41.6%)
3. 知らない	3 (2.0%)
医薬品医療機器情報配信サービス	
1. 利用している	25 (16.2%)
2. 知っているが、利用していない	87 (56.5%)
3. 知らない	42 (27.3%)
患者向医薬品ガイド・くすりのしおり	
1. 利用している	26 (16.9%)
2. 知っているが、利用していない	91 (59.1%)
3. 知らない	37 (24.0%)
インタビューフォーム	
1. 利用している	42 (27.3%)
2. 知っているが、利用していない	87 (56.5%)
3. 知らない	25 (16.2%)

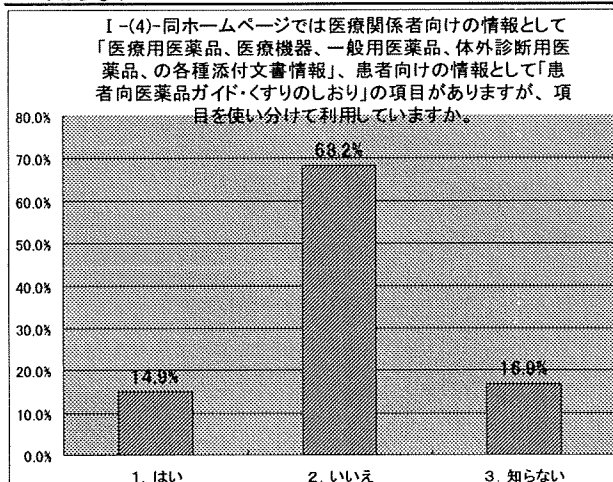


I-1-(3) これらの資料で利用しているものにつき、以下から該当するものに丸をつけてください。

質問項目	回答	医薬品・医療機器等 安全性情報	使用上の注意の改訂 指示通知	DSU(医薬品安全対 策情報-使用上の注 意改訂のご案内)	患者向医薬品ガイド ・くすりのしおり	医療用医薬品添付文 書インタビューフォー ム
読みやすいか	1. わかりづらい	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)
	2. どちらかと言うとわかりづらい	7 (6.6%)	14 (14.4%)	15 (14.2%)	7 (8.0%)	15 (16.7%)
	3. どちらでもない(普通)	77 (72.6%)	47 (48.5%)	49 (46.2%)	55 (62.5%)	48 (53.3%)
	4. どちらかと言うとわかりやすい	14 (13.2%)	32 (33.0%)	40 (37.7%)	25 (28.4%)	20 (22.2%)
	5. わかりやすい(適切)	6 (5.7%)	4 (4.1%)	2 (1.9%)	1 (1.1%)	5 (5.6%)
知りたい事柄を見つけやすいか	1. わかりづらい	1 (0.9%)	0 (0.0%)	4 (3.8%)	0 (0.0%)	4 (4.4%)
	2. どちらかと言うとわかりづらい	11 (10.4%)	23 (24.0%)	21 (19.8%)	12 (13.5%)	19 (21.1%)
	3. どちらでもない(普通)	82 (77.4%)	46 (47.9%)	56 (52.8%)	56 (62.9%)	42 (46.7%)
	4. どちらかと言うとわかりやすい	7 (6.6%)	24 (25.0%)	24 (22.6%)	21 (23.6%)	24 (26.7%)
	5. わかりやすい(適切)	5 (4.7%)	3 (3.1%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
資料の構成	1. わかりづらい	2 (1.9%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
	2. どちらかと言うとわかりづらい	5 (4.7%)	10 (10.5%)	16 (15.2%)	10 (11.4%)	13 (14.4%)
	3. どちらでもない(普通)	82 (77.4%)	61 (64.2%)	55 (52.4%)	57 (64.8%)	54 (60.0%)
	4. どちらかと言うとわかりやすい	12 (11.3%)	22 (23.2%)	32 (30.5%)	19 (21.6%)	19 (21.1%)
	5. わかりやすい(適切)	5 (4.7%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	2 (2.3%)	3 (3.3%)
字の大きさ	1. わかりづらい	4 (3.8%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
	2. どちらかと言うとわかりづらい	4 (3.8%)	6 (6.3%)	9 (8.5%)	7 (8.0%)	10 (10.9%)
	3. どちらでもない(普通)	66 (62.3%)	58 (60.4%)	52 (49.1%)	55 (62.5%)	55 (59.8%)
	4. どちらかと言うとわかりやすい	19 (17.9%)	23 (24.0%)	34 (32.1%)	23 (26.1%)	19 (20.7%)
	5. わかりやすい(適切)	13 (12.3%)	9 (9.4%)	9 (8.5%)	3 (3.4%)	7 (7.6%)
情報の量	1. わかりづらい	3 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
	2. どちらかと言うとわかりづらい	7 (6.7%)	7 (7.3%)	14 (13.6%)	9 (10.1%)	11 (12.0%)
	3. どちらでもない(普通)	74 (70.5%)	61 (63.5%)	54 (52.4%)	59 (66.3%)	50 (54.4%)
	4. どちらかと言うとわかりやすい	17 (16.2%)	28 (29.2%)	32 (31.1%)	19 (21.4%)	25 (27.2%)
	5. わかりやすい(適切)	4 (3.8%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	2 (2.3%)	5 (5.4%)
実践的であるか	1. そう思わない	0 (0.0%)	4 (4.2%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
	2. あまりそう思わない	26 (25.0%)	8 (8.4%)	14 (13.2%)	10 (11.2%)	11 (12.1%)
	3. どちらでもない	44 (42.3%)	50 (52.6%)	45 (42.5%)	45 (50.6%)	47 (51.7%)
	4. そう思う	34 (32.7%)	33 (34.7%)	44 (41.5%)	32 (36.0%)	28 (30.8%)
	5. 非常にそう思う	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (2.3%)	4 (4.4%)
理解しやすいか	1. そう思わない	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)
	2. あまりそう思わない	7 (6.7%)	8 (8.4%)	13 (12.3%)	3 (3.4%)	12 (13.0%)
	3. どちらでもない	61 (58.1%)	45 (47.4%)	52 (49.1%)	50 (56.8%)	52 (56.5%)
	4. そう思う	37 (35.2%)	39 (41.1%)	40 (37.7%)	34 (38.6%)	24 (26.1%)
	5. 非常にそう思う	0 (0.0%)	2 (2.1%)	1 (0.9%)	1 (1.1%)	2 (2.2%)
タイムリーか	1. そう思わない	2 (1.9%)	1 (1.1%)	4 (3.8%)	2 (2.3%)	1 (1.1%)
	2. あまりそう思わない	11 (10.4%)	11 (11.6%)	11 (10.5%)	11 (12.6%)	16 (17.4%)
	3. どちらでもない	44 (41.5%)	44 (46.3%)	43 (41.0%)	60 (69.0%)	56 (60.9%)
	4. そう思う	47 (44.3%)	37 (39.0%)	44 (41.9%)	14 (16.1%)	18 (19.6%)
	5. 非常にそう思う	2 (1.9%)	2 (2.1%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
役に立つか	1. そう思わない	0 (0.0%)	3 (3.2%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
	2. あまりそう思わない	10 (9.5%)	9 (9.5%)	8 (7.6%)	6 (6.7%)	5 (5.4%)
	3. どちらでもない	48 (45.7%)	44 (46.3%)	38 (35.9%)	55 (61.8%)	51 (55.4%)
	4. そう思う	44 (41.9%)	38 (40.0%)	56 (52.8%)	24 (27.0%)	33 (35.9%)
	5. 非常にそう思う	3 (2.9%)	1 (1.1%)	2 (1.9%)	4 (4.5%)	2 (2.2%)
背景情報の量は適切か	1. そう思わない	1 (1.0%)	3 (3.2%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)
	2. あまりそう思わない	13 (12.5%)	11 (11.6%)	17 (16.0%)	8 (9.2%)	5 (5.5%)
	3. どちらでもない	60 (57.7%)	52 (54.7%)	55 (51.9%)	61 (70.1%)	59 (64.8%)
	4. そう思う	29 (27.9%)	27 (28.4%)	31 (29.3%)	17 (19.5%)	22 (24.2%)
	5. 非常にそう思う	1 (1.0%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)	4 (4.4%)

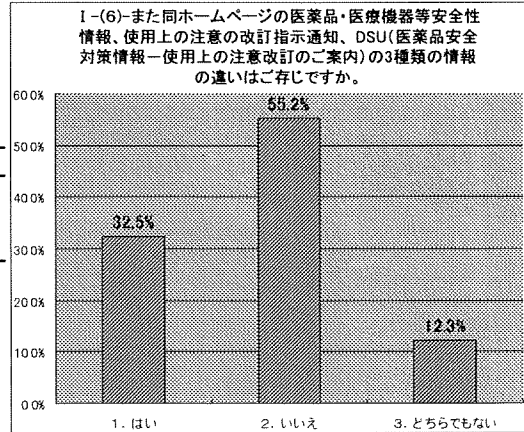
I-1-(4)同ホームページでは医療関係者向けの情報として「医療用医薬品、医療機器、一般用医薬品、体外診断用医薬品、の各種添付文書情報」、患者向けの情報として「患者向医薬品ガイド・くすりのしおり」の項目がありますが、項目を使い分けて利用していますか。

	度数 (%)
1. はい	23 (14.9%)
2. いいえ	105 (68.2%)
3. 知らない	26 (16.9%)



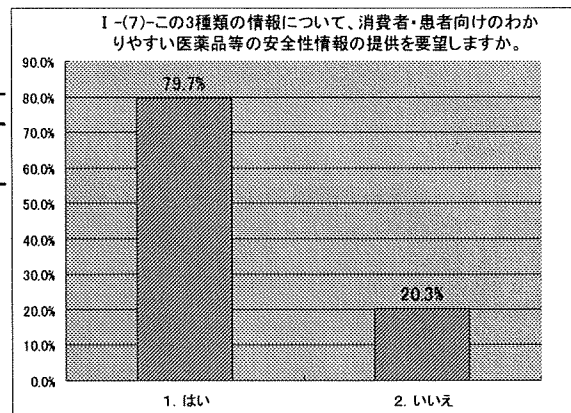
I-1-(6)また同ホームページの医薬品・医療機器等安全性情報、使用上の注意の改訂指示通知、DSU(医薬品安全対策情報—使用上の注意改訂のご案内)の3種類の情報の違いはご存じですか。

	度数(%)
1. はい	50 (32.5%)
2. いいえ	85 (55.2%)
3. どちらでもない	19 (12.3%)



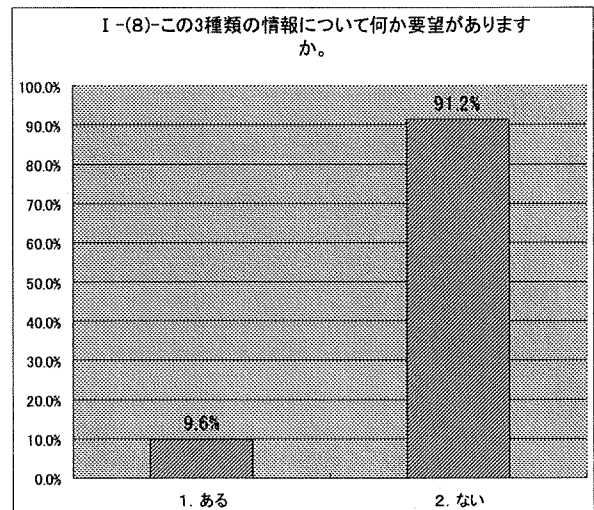
I-1-(7)この3種類の情報について、消費者・患者向けのわかりやすい医薬品等の安全性情報の提供を要望しますか。

	度数(%)
1. はい	51 (79.7%)
2. いいえ	13 (20.3%)



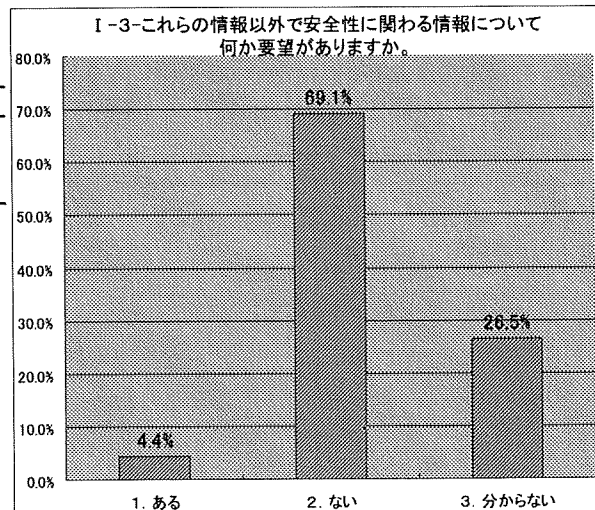
I-1-(8)この3種類の情報について何か要望がありますか。

	度数(%)
1. ある	5 (9.6%)
2. ない	52 (91.2%)



I-3-これらの情報以外で安全性に関わる情報について何か要望がありますか。

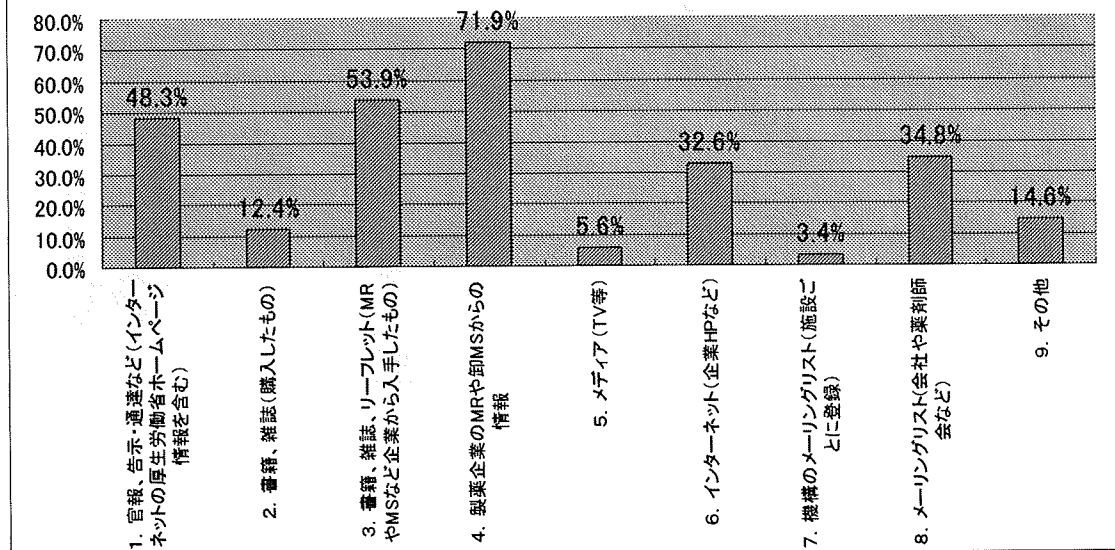
	度数(%)
1. ある	6 (4.4%)
2. ない	94 (69.1%)
3. 分からない	36 (26.5%)



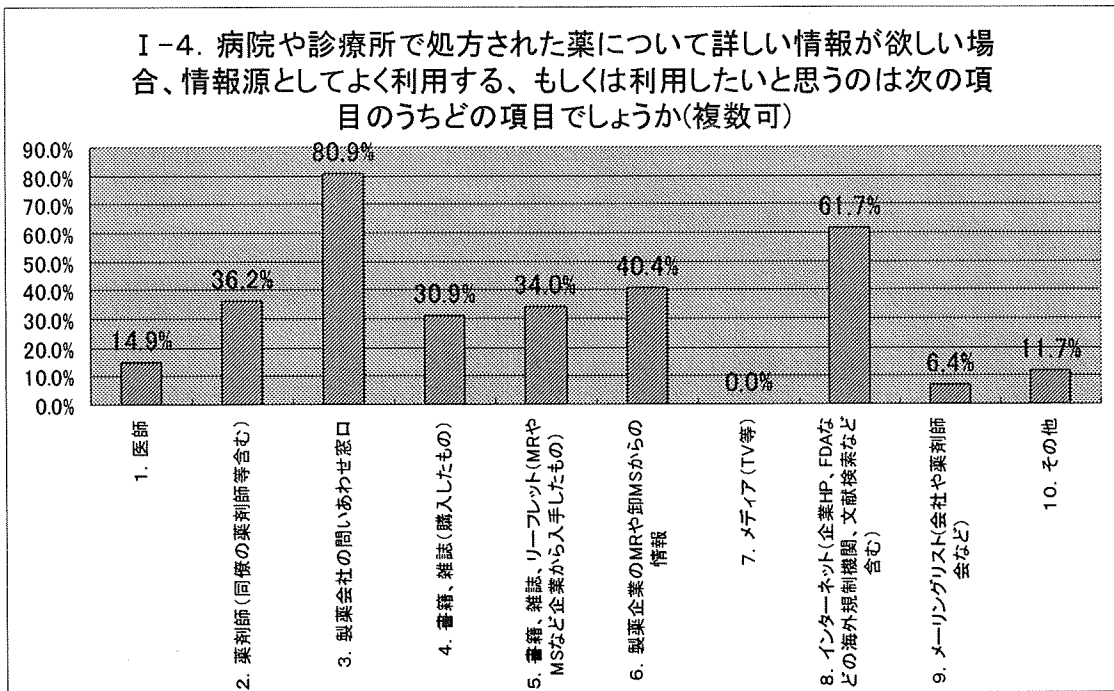
I-2. 厚生労働省やPMDAなどから出されている医薬品等の安全性情報をどのような方法・手段で入手していますか。方法・手段を教えてください。(複数可)

1. 官報、告示・通達など (インターネットの厚生労働省ホームページ情報を含む)	43 (48.3%)
2. 書籍、雑誌(購入したもの)	11 (12.4%)
3. 書籍、雑誌、リーフレット(MRやMSなど企業から入手したもの)	48 (53.9%)
4. 製薬企業のMRや卸MSからの情報	64 (71.9%)
5. メディア(TV等)	5 (5.6%)
6. インターネット(企業HPなど)	29 (32.6%)
7. 機構のメーリングリスト(施設ごとに登録)	3 (3.4%)
8. メーリングリスト(会社や薬剤師会など)	31 (34.8%)
9. その他	13 (14.6%)

I-2. 厚生労働省やPMDAなどから出されている医薬品等の安全性情報をどのような方法・手段で入手していますか(複数可)



I-4. 病院や診療所で処方された薬について詳しい情報が欲しい場合、情報源としてよく利用する、もしくは利用したいと思うのは次の項目のうちどの項目でしょうか。(複数可)	1. 医師	14 (14.9%)
	2. 薬剤師(同僚の薬剤師等含む)	34 (36.2%)
	3. 製薬会社の問い合わせ窓口	76 (80.9%)
	4. 書籍、雑誌(購入したもの)	29 (30.9%)
	5. 書籍、雑誌、リーフレット(MRやMSなど企業から入手したもの)	32 (34.0%)
	6. 製薬企業のMRや卸MSからの情報	38 (40.4%)
	7. メディア(TV等)	0 (0.0%)
	8. インターネット (企業HP、FDAなどの海外規制機関、文献検索など含む)	58 (61.7%)
	9. メールリスト(会社や薬剤師会など)	6 (6.4%)
	10. その他	11 (11.7%)

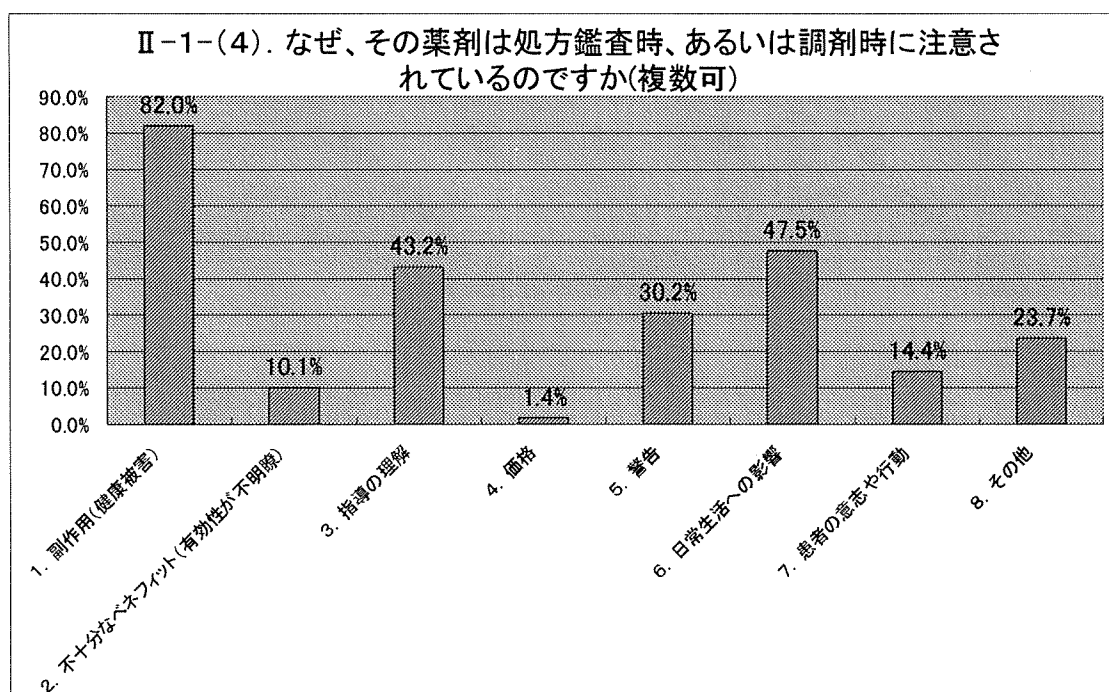


II-1-(2)リスクについて、どの程度説明しますか		度数(%)
市販されている医薬品(第一類医薬品)	1. かなり説明する	22 (15.0%)
	2. 少し説明する	102 (69.4%)
	3. わずかに説明する	16 (10.9%)
	4. ほとんど説明しない (添付文書を読んでもらう等程度)	6 (4.1%)
	5. ぜんぜん説明しない	1 (0.7%)
市販されている医薬品(第二類医薬品)	1. かなり説明する	8 (5.4%)
	2. 少し説明する	66 (44.9%)
	3. わずかに説明する	49 (33.3%)
	4. ほとんど説明しない (添付文書を読んでもらう等程度)	21 (14.3%)
	5. ぜんぜん説明しない	3 (2.0%)
市販されている医薬品(第三類医薬品)	1. かなり説明する	2 (1.4%)
	2. 少し説明する	39 (26.4%)
	3. わずかに説明する	40 (27.0%)
	4. ほとんど説明しない (添付文書を読んでもらう等程度)	60 (40.5%)
	5. ぜんぜん説明しない	7 (4.7%)
ハイリスク薬	1. かなり説明する	70 (47.3%)
	2. 少し説明する	70 (47.3%)
	3. わずかに説明する	7 (4.7%)
	4. ほとんど説明しない (添付文書を読んでもらう等程度)	1 (0.7%)
	5. ぜんぜん説明しない	0 (0.0%)
処方された薬剤	1. かなり説明する	53 (35.1%)
	2. 少し説明する	92 (60.9%)
	3. わずかに説明する	6 (4.0%)
	4. ほとんど説明しない (添付文書を読んでもらう等程度)	0 (0.0%)
	5. ぜんぜん説明しない	0 (0.0%)
医療機器(吸入器、注射器など)	1. かなり説明する	34 (22.7%)
	2. 少し説明する	79 (52.7%)
	3. わずかに説明する	18 (12.0%)
	4. ほとんど説明しない (添付文書を読んでもらう等程度)	15 (10.0%)
	5. ぜんぜん説明しない	4 (2.7%)
II-1-(1)リスク(副作用)について、どの程度考慮しますか		度数(%)
市販されている医薬品(第一類医薬品)	1. かなり考慮する	26 (17.3%)
	2. 考慮する	90 (60.0%)
	3. 少し考慮する	30 (20.0%)
	4. ほとんど考慮しない	2 (1.3%)
	5. ぜんぜん考慮しない	2 (1.3%)
市販されている医薬品(第二類医薬品)	1. かなり考慮する	5 (3.3%)
	2. 考慮する	63 (41.7%)
	3. 少し考慮する	74 (49.0%)
	4. ほとんど考慮しない	7 (4.6%)
	5. ぜんぜん考慮しない	2 (1.3%)
市販されている医薬品(第三類医薬品)	1. かなり考慮する	1 (0.7%)
	2. 考慮する	37 (24.5%)
	3. 少し考慮する	70 (46.4%)
	4. ほとんど考慮しない	41 (27.2%)
	5. ぜんぜん考慮しない	2 (1.3%)
ハイリスク薬	1. かなり考慮する	77 (51.0%)
	2. 考慮する	70 (46.4%)
	3. 少し考慮する	4 (2.7%)
	4. ほとんど考慮しない	0 (0.0%)
	5. ぜんぜん考慮しない	0 (0.0%)
処方された薬剤	1. かなり考慮する	54 (35.8%)
	2. 考慮する	91 (60.3%)
	3. 少し考慮する	6 (4.0%)
	4. ほとんど考慮しない	0 (0.0%)
	5. ぜんぜん考慮しない	0 (0.0%)
医療機器(吸入器、注射器など)	1. かなり考慮する	25 (16.7%)
	2. 考慮する	84 (56.0%)
	3. 少し考慮する	27 (18.0%)
	4. ほとんど考慮しない	11 (7.3%)
	5. ぜんぜん考慮しない	3 (2.0%)

Ⅱ-1-(3) 処方された薬剤についてお伺いします。処方鑑査時、あるいは調剤時に注意している薬剤がありますか。

1. ある	144 (96.0%)
2. ない	4 (2.7%)
3. わからない	2 (1.3%)

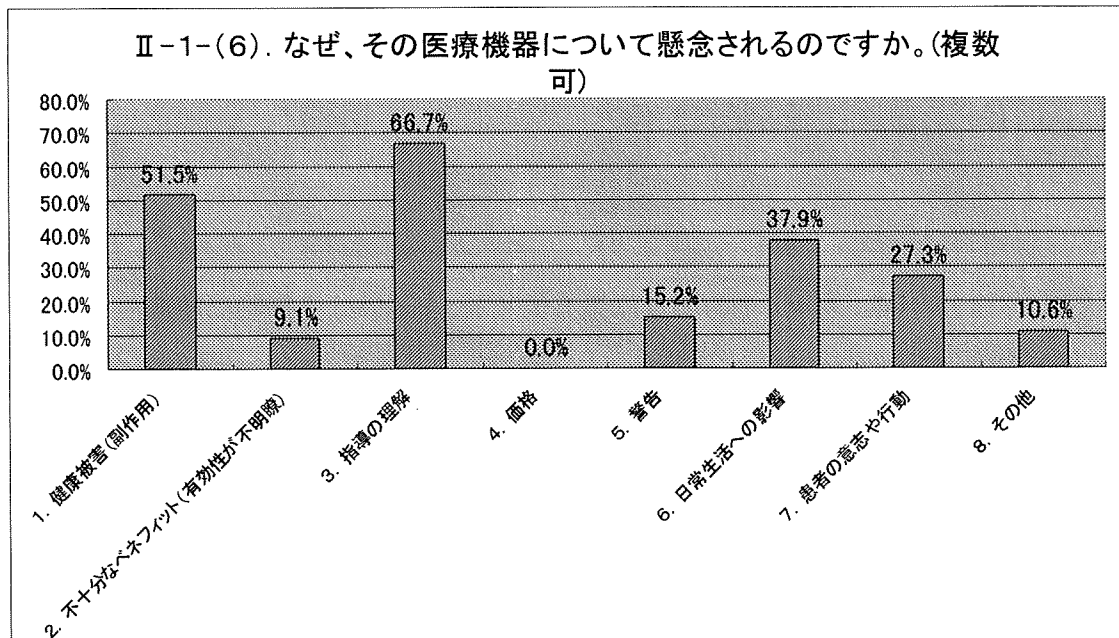
Ⅱ-1-(4). なぜ、その薬剤は処方鑑査時、あるいは調剤時に注意されているのですか。(複数可)	1. 副作用(健康被害)	114 (82.0%)
	2. 不十分なベネフィット(有効性が不明瞭)	14 (10.1%)
	3. 指導の理解	60 (43.2%)
	4. 価格	2 (1.4%)
	5. 警告	42 (30.2%)
	6. 日常生活への影響	66 (47.5%)
	7. 患者の意志や行動	20 (14.4%)
	8. その他	33 (23.7%)



Ⅱ-1-(5) 医療機器(吸入器、注射器など)についてお伺いします。懸念している医療機器がありますか。

1. ある	63 (41.7%)
2. ない	56 (37.1%)
3. わからない	32 (21.2%)

II-1-(6). なぜ、その医療機器について懸念されるのですか。(複数可)	1. 健康被害(副作用)	34 (51.5%)
	2. 不十分なベネフィット(有効性が不明瞭)	6 (9.1%)
	3. 指導の理解	44 (66.7%)
	4. 価格	0 (0.0%)
	5. 警告	10 (15.2%)
	6. 日常生活への影響	25 (37.9%)
	7. 患者の意志や行動	18 (27.3%)
	8. その他	7 (10.6%)



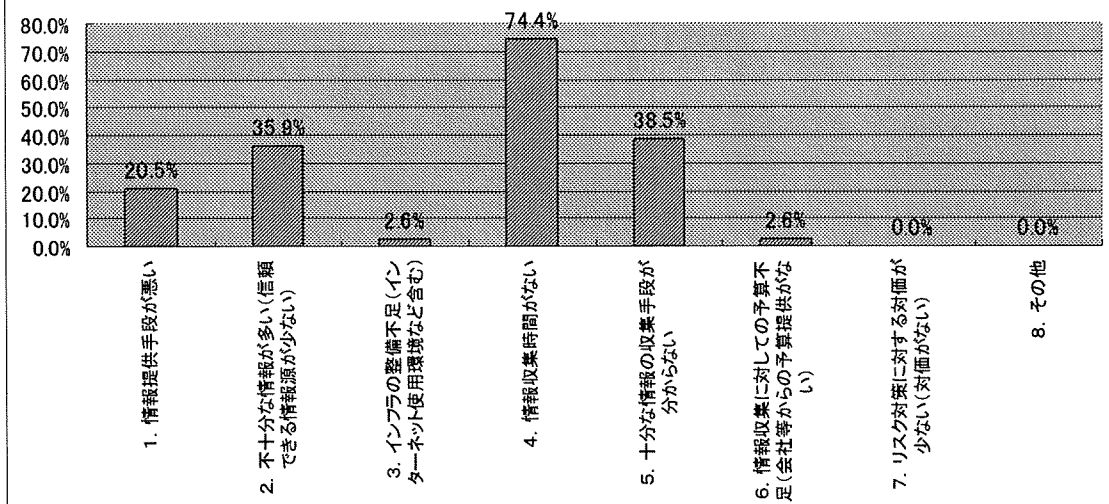
II-1-(7) 医薬品や医療機器のリスク情報を十分に収集できていますか。

1. はい	52 (34.7%)
2. いいえ	40 (26.7%)
3. わからない	58 (38.7%)

II-1-(8). なぜ、医薬品や医療機器のリスク情報を十分に収集できていないのですか。(複数可)

1. 情報提供手段が悪い	8 (20.5%)
2. 不十分な情報が多い(信頼できる情報源が少ない)	14 (35.9%)
3. インフラの整備不足(インターネット使用環境など含む)	1 (2.6%)
4. 情報収集時間がない	29 (74.4%)
5. 十分な情報の収集手段が分からない	15 (38.5%)
6. 情報収集に対しての予算不足(会社等からの予算提供がない)	1 (2.6%)
7. リスク対策に対する対価が少ない(対価がない)	0 (0.0%)
8. その他	0 (0.0%)

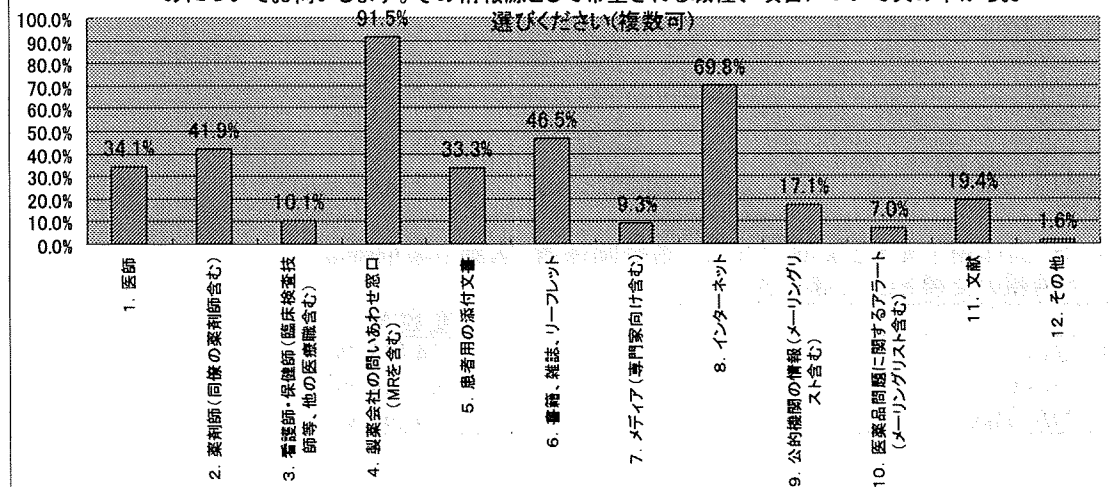
II-1-(8). なぜ、医薬品や医療機器のリスク情報を十分に収集できていないのですか(複数可)



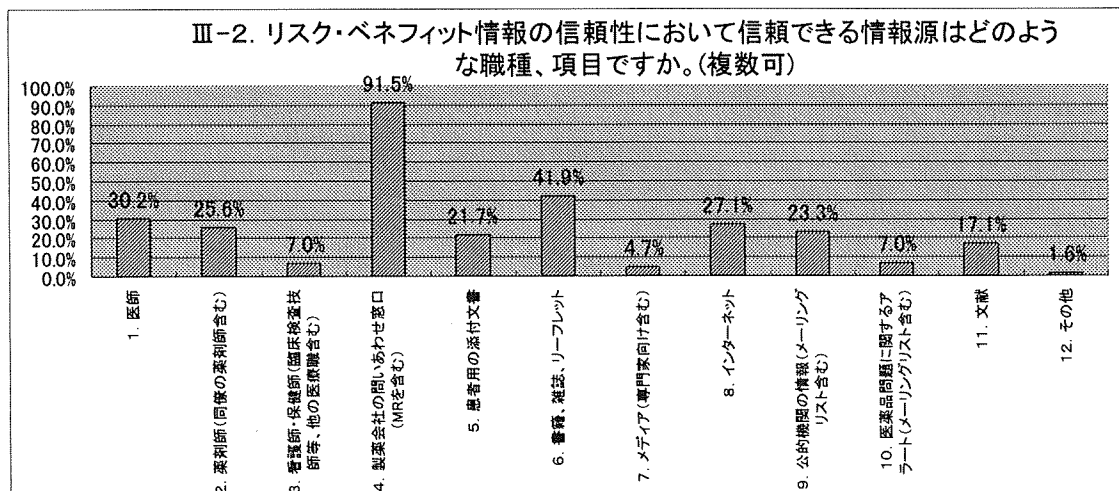
III-1. 医薬品の情報が欲しい場合、情報源としてよく利用する、もしくは利用したいと思うものについてお伺いします。その情報源として希望される職種、項目について次の中からお選びください。(複数可)

1. 医師	44 (34.1%)
2. 薬剤師(同僚の薬剤師含む)	54 (41.9%)
3. 看護師・保健師(臨床検査技師等、他の医療職含む)	13 (10.1%)
4. 製薬会社の問い合わせ窓口(MRを含む)	118 (91.5%)
5. 患者用の添付文書	43 (33.3%)
6. 書籍、雑誌、リーフレット	60 (46.5%)
7. メディア(専門家向け含む)	12 (9.3%)
8. インターネット	90 (69.8%)
9. 公的機関の情報(メーリングリスト含む)	22 (17.1%)
10. 医薬品問題に関するアラート(メーリングリスト含む)	9 (7.0%)
11. 文献	25 (19.4%)
12. その他	2 (1.6%)

III-1. 医薬品の情報が欲しい場合、情報源としてよく利用する、もしくは利用したいと思うものについてお伺いします。その情報源として希望される職種、項目について次の中からお選びください(複数可)



Ⅲ-2. リスク・ベネフィット情報の信頼性において信頼できる情報源はどのような職種、項目ですか。(複数可)	1. 医師	39 (30.2%)
	2. 薬剤師(同僚の薬剤師含む)	33 (25.6%)
	3. 看護師・保健師(臨床検査技師等、他の医療職含む)	9 (7.0%)
	4. 製薬会社の問い合わせ窓口(MRを含む)	118 (91.5%)
	5. 患者用の添付文書	28 (21.7%)
	6. 書籍、雑誌、リーフレット	54 (41.9%)
	7. メディア(専門家向け含む)	6 (4.7%)
	8. インターネット	35 (27.1%)
	9. 公的機関の情報(メーリングリスト含む)	30 (23.3%)
	10. 医薬品問題に関するアラート(メーリングリスト含む)	9 (7.0%)
	11. 文献	22 (17.1%)
	12. その他	2 (1.6%)



Ⅲ-3-上記でお答えいただいた情報源より処方された薬剤やハイリスク薬などについてベネフィット(主作用や二次作用)に関する情報の交換(提供)を今よりさらに受けたいと思いますか。

	度数(%)
1. はい	117 (80.7%)
2. いいえ	9 (6.2%)
3. わからない	19 (13.1%)

Ⅲ-4-上記でお答えいただいた情報源より処方された薬剤やハイリスク薬などについてリスク(副作用)に関する情報の交換(提供)を今よりさらに受けたいと思いますか。

	度数(%)
1. はい	120 (81.6%)
2. いいえ	9 (6.1%)
3. わからない	18 (12.2%)

Ⅲ-5-副作用を有する薬剤について、医療関係者(医師や薬剤師など)と情報の交換をしていますか。

	度数(%)
1. はい	74 (49.7%)
2. いいえ	66 (44.3%)
3. わからない	9 (6.0%)

Ⅲ-5-(1)-それは、主に何についての情報の交換ですか。

	度数(%)
1. ベネフィット情報	28 (36.8%)
2. リスク情報	44 (57.9%)
3. その他	4 (5.3%)

IV-(1)-医師が処方した薬剤について、その医師に疑義照会をすること(質問すること)がありますか。

	度数(%)
1. はい	152 (99.4%)
2. いいえ	1 (0.7%)

IV-(2)-医師に対し、薬剤に関して依頼すること(依頼したこと)がありますか。

	度数(%)
1. はい	114 (74.5%)
2. いいえ	39 (25.5%)

IV-(3)-医師が処方した薬剤について、その医師と十分な情報の交換、コミュニケーションをしていますか。

	度数(%)
1. はい	23 (14.9%)
2. いいえ	131 (85.1%)

IV-(4)-処方された薬剤の服薬指導を行う際に、リスク・ベネフィットの情報等、十分な情報の提供をしていますか。

	度数(%)
1. はい	103 (67.3%)
2. いいえ	50 (32.7%)

IV-(5)-処方された薬剤について、服薬指導を行う際に副作用の情報提供は十分だと感じますか。

	度数(%)
1. 十分である	31 (20.1%)
2. 不十分である	81 (52.6%)
3. わからない	42 (27.3%)

IV-(6)-医師が処方した薬剤で、ハイリスク(副作用が大きい)薬剤の投薬について、どの程度、気にしますか。

	度数(%)
1. かなり気にしている	94 (61.0%)
2. 少しは気にしている	58 (37.7%)
3. 気にしていない	2 (1.3%)

IV-(7)-患者に対して、リスク(副作用)の情報提供や会話(コミュニケーション)は十分できていると感じますか。

	度数(%)
1. 十分である	10 (6.6%)
2. 不十分である	99 (65.6%)
3. わからない	42 (27.8%)

IV-(9)-また患者に対してリスク(副作用)の情報提供や会話(コミュニケーション)を継続してできていると感じますか。

	度数(%)
1. 十分である	15 (9.8%)
2. 不十分である	89 (58.2%)
3. わからない	49 (32.0%)

勤続年数	度数(%)
3	4 (2.6%)
3.5	1 (0.7%)
4	18 (11.7%)
5	13 (8.4%)
6	23 (14.9%)
7	19 (12.3%)
8	12 (7.8%)
9	20 (13.0%)
10	14 (9.1%)
11	6 (3.9%)
12	7 (4.6%)
13	4 (2.6%)
14	4 (2.6%)
15	1 (0.7%)
16	3 (2.0%)
17	2 (1.3%)
19	1 (0.7%)
24	2 (1.3%)

勤務地	度数(%)
愛媛	1 (0.7%)
茨城	29 (18.8%)
沖縄	1 (0.7%)
岩手	4 (2.6%)
宮崎	1 (0.7%)
宮城	8 (5.2%)
京都	4 (2.6%)
群馬	2 (1.3%)
広島	2 (1.3%)
山形	7 (4.6%)
秋田	1 (0.7%)
新潟	3 (2.0%)
青森	3 (2.0%)
青森、岩手	1 (0.7%)
石川	5 (3.3%)
千葉	2 (1.3%)
大阪	5 (3.3%)
東京都	1 (0.7%)
栃木	2 (1.3%)
奈良	1 (0.7%)
富山	1 (0.7%)
福岡	2 (1.3%)
福島	6 (3.9%)
北海道	61 (39.6%)
和歌山	1 (0.7%)

医薬品情報に関するアンケート調査（薬剤師向け）

I. 厚生労働省や独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA）などから提供されている医薬品等の安全性情報

1. 厚生労働省や PMDA などから提供されている医薬品等の安全性情報についてお尋ねします。

(1) PMDA より提供されている医薬品医療機器情報提供ホームページはご存じですか。

1. 知っている 2. 知らない

(2) 医薬品医療機器情報提供ホームページの情報とサービスである下記の項目を、それぞれ利用されているか、該当するものに丸をつけてください。

医薬品・医療機器等安全性情報	1. 利用している	2. 知っているが、利用していない	3. 知らない
使用上の注意の改訂指示通知	1. 利用している	2. 知っているが、利用していない	3. 知らない
DSU（医薬品安全対策情報－使用上の注意改訂のご案内）	1. 利用している	2. 知っているが、利用していない	3. 知らない
医薬品医療機器情報配信サービス*	1. 利用している	2. 知っているが、利用していない	3. 知らない
患者向医薬品ガイド・くすりのしおり	1. 利用している	2. 知っているが、利用していない	3. 知らない
インタビューフォーム**	1. 利用している	2. 知っているが、利用していない	3. 知らない

*）医薬品・医療機器の安全性に関する特に重要な情報が発出された時に、タイムリーにその情報をメールによって配信するサービスです。医薬品医療機器情報提供ホームページより登録できます。

**）平成 21 年 5 月 13 日に作成された新規コンテンツとして、医療用医薬品添付文書情報画面に「インタビューフォーム」の掲載がされています。

(3) 上記(2)のうち、医薬品・医療機器等安全性情報、使用上の注意の改訂指示通知、DSU（医薬品安全対策情報－使用上の注意改訂のご案内）、患者向医薬品ガイド・くすりのしおり、医療用医薬品添付文書情報のインタビューフォーム、について、「1. 利用している」と回答された方にお聞きします。

これらの資料で利用しているものにつき、以下から該当するものに丸をつけてください。

i) 医薬品・医療機器等安全性情報

1) 情報の示し方について	わかりづ らい（不 適切）		どちらで もない （普通）		わかりや すい（適 切）
読みやすいか	1	2	3	4	5
知りたい事柄を見つけやすいか	1	2	3	4	5
資料の構成	1	2	3	4	5
字の大きさ	1	2	3	4	5
情報の量	1	2	3	4	5

2) 情報の内容について	そう思 わない	あまりそ う思わな い	どちらで もない	そう思 う	非常にそ う思 う
実践的であるか	1	2	3	4	5
理解しやすいか	1	2	3	4	5
タイムリーか	1	2	3	4	5
役に立つか	1	2	3	4	5
背景情報の量は適切か	1	2	3	4	5

ii) 使用上の注意の改訂指示通知

1) 情報の示し方について	わかりづ らい (不 適切)		どちらで もない (普通)		わかりや すい (適 切)
読みやすいか	1	2	3	4	5
知りたい事柄を見つけやすいか	1	2	3	4	5
資料の構成	1	2	3	4	5
字の大きさ	1	2	3	4	5
情報の量	1	2	3	4	5

2) 情報の内容について	そう思 わない	あまりそ う思わな い	どちらで もない	そう思 う	非常にそ う思 う
実践的であるか	1	2	3	4	5
理解しやすいか	1	2	3	4	5
タイムリーか	1	2	3	4	5
役に立つか	1	2	3	4	5
背景情報の量は適切か	1	2	3	4	5

iii) DSU (医薬品安全対策情報—使用上の注意改訂のご案内)

1) 情報の示し方について	わかりづ らい (不 適切)		どちらで もない (普通)		わかりや すい (適 切)
読みやすいか	1	2	3	4	5
知りたい事柄を見つけやすいか	1	2	3	4	5
資料の構成	1	2	3	4	5
字の大きさ	1	2	3	4	5
情報の量	1	2	3	4	5

2) 情報の内容について	そう思 わない	あまりそ う思わな い	どちらで もない	そう思 う	非常にそ う思 う
実践的であるか	1	2	3	4	5
理解しやすいか	1	2	3	4	5
タイムリーか	1	2	3	4	5
役に立つか	1	2	3	4	5
背景情報の量は適切か	1	2	3	4	5

iv) 患者向医薬品ガイド・くすりのしおり

1) 情報の示し方について	わかりづ らい (不 適切)		どちらで もない (普通)		わかりや すい (適 切)
読みやすいか	1	2	3	4	5
知りたい事柄を見つけやすいか	1	2	3	4	5
資料の構成	1	2	3	4	5
字の大きさ	1	2	3	4	5
情報の量	1	2	3	4	5

2) 情報の内容について	そう思わ ない	あまりそ う思わな い	どちらで もない	そう思う	非常にそ う思う
実践的であるか	1	2	3	4	5
理解しやすいか	1	2	3	4	5
タイムリーか	1	2	3	4	5
役に立つか	1	2	3	4	5
背景情報の量は適切か	1	2	3	4	5

v) 医療用医薬品添付文書インタビューフォーム

1) 情報の示し方について	わかりづ らい (不 適切)		どちらで もない (普通)		わかりや すい (適 切)
読みやすいか	1	2	3	4	5
知りたい事柄を見つけやすいか	1	2	3	4	5
資料の構成	1	2	3	4	5
字の大きさ	1	2	3	4	5
情報の量	1	2	3	4	5

2) 情報の内容について	そう思わ ない	あまりそ う思わな い	どちらで もない	そう思う	非常にそ う思う
実践的であるか	1	2	3	4	5
理解しやすいか	1	2	3	4	5
タイムリーか	1	2	3	4	5
役に立つか	1	2	3	4	5
背景情報の量は適切か	1	2	3	4	5

- (4) 同ホームページでは医療関係者向けの情報として「医療用医薬品、医療機器、一般用医薬品、体外診断用医薬品、の各種添付文書情報」、患者向けの情報として「患者向医薬品ガイド・くすりのしおり」の項目がありますが、項目を使い分けて利用していますか。

1. はい 2. いいえ 3. 知らない

「1. はい」と答えた方は、以下の(5)の質問にお答えください。